

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2024年5月29日

回答数 指導員5人 放デイ：25人 児発：14人

事業所名：エファタ会館こぼの教室

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	とてもできている。(はいが100%) お子様の発達状況に合わせて、部屋を選択できる工夫をしている。	十分満足いただけている。 (はいが97.4%)	3㎡の指導室2部屋は個別指導に、大ホール34㎡は個別指導、集団指導に使用しておりスペースは十分である。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	とてもできている。(はいが100%)	満足いただけている。 (はいが94.9%)	常勤の言語聴覚士3名に加え、児童指導員を増員し、支援を強化。一層満足いただけるよう、各職員の見識やスキル向上をしていきたい。
	③ 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	とてもできている。(はいが100%) 建物全体的にバリアフリー仕様ではある。	満足いただけている。 (はいが74.4%)	車椅子の利用者は無しだが、ベビーカーで来館される方への配慮もしていきたい。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	とてもできている。(はいが100%)		目標設定と振り返りの機会を増やし、業務改善につなげたい。
	⑤ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向を把握し、業務改善につなげているか	とてもできている。(はいが100%) 相談支援の場で保護者の不安や不満を吸い上げて解決に努力している。		2025年度は「めやす箱」の設置を実現し、保護者の声をもとにした業務改善を強化する。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	とてもできている。(はいが100%) ホームページで公開している。		今まで集団の療育用のチェック項目を使用してきたが、2024年度はエファタの個別指導の療育内容に合うものに微修正した。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	(どちらともいえないが40.0%)		第三者による外部評価について、今後は導入を検討する。
適切な支援の提供	⑧ 職員の資質の向上を行うための研修機会を確保しているか	できている。(はいが80%)		スケジュールの調整、予算の確保を行い、研修を通してのスキルアップを従業員に促しているが、実際は日々の支援業務の中で時間の「確保」までは難しいという声がある。
	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を作成しているか	とてもできている。(はいが100%)	満足いただけている。 (はいが94.9%)	引き続きアセスメントによる評価と保護者のニーズに基づく支援計画を作成していく。5領域について明示する。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	とてもできている。(はいが100%)		ソーシャルスキルトレーニング評価、TS式幼児・児童性格診断検査、WISC、WPSSIなどを実施している。今後も継続する。研鑽も行う。
	⑪ 支援プログラムの立案をチームで行っているか	できている。(はいが80.0%)		個別指導なので基本的には支援プログラムも個別に立案するが、2024年度は、公開に当たり全従業員で当館の支援プログラムの柱を検討し明文化した。
	⑫ 支援プログラムが固定化しないような工夫がされているか	とてもできている。(はいが100%)	満足いただけている。 (はいが89.7%)	各種アセスメント評価とお子様の発達状況に即した支援をしているので固定化することは無い。2024度は毎月ケースカンファレンスを行い助言し合える場を設けた。
	⑬ 園や学校での課題や希望する進路に応じて課題をきめ細やかに設定して支援しているか	できている。(はいが80.0%)		「きめ細かに」の部分が必要という声があった。保護者や関係機関との連携や、就学・就労先で求められる力の把握をより丁寧に行っていきたい。
	⑭ 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画を作成しているか	とてもできている。(はいが100%)		そもそも個別に言語発達指導を行うことが当館の特長であり、保護者からもそれを期待されているため、個別と集団を適宜組み合わせる支援は基本的に行っていない。
	⑮ その日行われる支援内容や役割分担について、職員間で適宜打ち合わせをし、確認をしているか	とてもできている。(はいが100%)		指導員は5人いるが、必要な連携は、適時とれているので問題を感じていない。
	⑯ その日行われた支援について、職員間で適宜打ち合わせをし、振り返りを行い、気付いた点などの情報の共有化をしているか	とてもできている。(はいが100%)		指導員は5人いるが、必要な連携は、適時とれているので問題を感じていない。
	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	とてもできている。(はいが100%)		必ず毎回の支援の時に指導内容や結果、今後の目標等を記録している。また、毎月のケースカンファレンスが支援の検証・改善につながる機会となっている。
	⑱ 定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直しを判断しているか	とてもできている。(はいが100%)		半年に1回、モニタリング(=見直し)を行い、サービス計画の見直しを判断している。保護者や他事業所の意見も聞いて対応している。
	⑲ ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	とてもできている。(はいが100%)		常日頃「基本活動」に記載された支援を複数実施してきたが、2024度からは「5領域」を一層意識して支援を行うようになった。

関係機関との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	とてもできている。(はいが100%) 個別指導なので最も適任である担当の指導者が参画している。		担当のお子様の成長を促すために、必要に応じて相談支援事業所などの連携機会を大切にしている。
	㉑	必要に応じて学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	どちらともいえない。(80%) 送迎サービスを行っていない。		保護者による送迎を基本としているが、学校帰りに一人で来館する場合は保護者と連絡調整を行っている。
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	いいえ。必要なお子さんお預かりしていない(80%)		手術の必要性等は、当所では判断できないため、保護者に医療機関に相談の上判断していただくよう伝えている。
	㉓	就学前に利用していた保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	できている。(はいが60%)		就学後の指導内容などについて、保護者から要望があれば専門家としてアドバイスしている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか	できている。(はいが60%)		2024年度は該当者がいなかった。保護者からの要望があれば今後も報告書の作成等の協力を行う。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	できている。(はいが60%) 研修の機会はなかったが、こちらからお子さんの現状を伝えアドバイスを受けるなど連携している。		今後もお子様の発達を促すために保護者からの要望があれば必要に応じて連携をしていく。
	㉖	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会があるか	いいえ。個別指導のため不要(100%)	いいえ。個別指導のため不要(76.9%) いいえ。必要だが機会がない(7.7%)	個別指導で個人情報への配慮もあり、今のところ今後も予定していない。保護者のニーズも少ないと理解している。
	㉗	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	いいえ。個人情報の問題もあり、行いづらい、行う必要がない(100%)		個別指導が主体なので、地域住民に個人情報が出漏れないことを優先し、特に公開行事は行っていない。
	㉘	支援の内容、利用者負担について丁寧な説明がなされたか	とてもできている。(はいが100%)	説明がなされた(はい 84.6%) (どちらともいえない 10.3%)	保護者をもっと丁寧な説明してほしいと感じている。次年度は、報酬改定の説明を丁寧に行うこと、また家庭支援等の機会を増やしたい。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	できている。(はいが80%)		普段の指導の中でポモドーロ法やビグマリオン効果法を示し、また、ポーター・プログラムを活用し、保護者の対応力の向上を図っている。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について、共通理解ができているか	とてもできている。(はいが100%)	行われている(はい 97.4%) (いいえ 2.6%)	毎回の指導内容について報告し、保護者の不安や悩みを理解するように努めているが、不足を感じている保護者もいるので、家庭支援の機会を増やす。
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	とてもできている。(はいが100%) 毎回の指導の際、事業所内相談支援、電話での支援など。	行われている(はい 94.9%) (どちらともいえない 2.6%)	不足を感じている保護者がいるので、家庭支援を保護者と予定を合わせてできる限り増やしていきたい。
	㉜	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催により保護者同士の連携が支援されているか	いいえ。必要としない(66.7%)	いいえ。個別のため必要ない(82.1%) どちらともいえない(7.7%)	個別指導が主のため、父母の会や保護者会自体は必要性が低い。ただし、進路講演会等を開催し、保護者が情報を得られるような機会を作りたい。2024年度は、聞こえに関する講演会を実施した。
	㉝	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	できている。(はいが80%)	はい(82.1%) どちらともいえない(15.4%)	保護者の不満を解消できるよう、次年度は「ご意見箱」の設置を行い、迅速かつ適切に対応したい。
	㉞	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	発信したが定期的とは言えない。(はいが80%)	はい(35.9%) どちらともいえない(46.2%) いいえ(17.9%)	個別のLINEでの情報発信やスケジュール等の発信は行っているが、定期的ではない。2024年度は会報を一回発行したので今年度は回数を増やし定期発行をめざす。
	㉟	個人情報に十分に注意しているか	注意している。(はい 100%) 第三者に氏名を公表しないなど気を付けている。	はい(87.2%) どちらともいえない(10.3%)	個別のカルテや、スケジュール表を他の方の目に入るところに置かないように注意する。職員のリテラシー向上のため研修を行う。
	㊱	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	配慮している。(はい 100%) ダウン症、自閉症、聴覚障害、構音障害、知的障害などのお子さんがいます。	配慮している(はい 94.9%)	難聴のある保護者へは時間を割く、文書化するなどの配慮を行っている。
㊲	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	はい。(60%) 各種マニュアルは策定したが周知不足。	はい(54.1%) どちらともいえない(37.8%)	BCPとして防災・感染症対策のマニュアルを策定したので、会報などを利用して周知していく。	

非常時等の対応	③⑧ 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	いいえ。必要性がうすい(80%) 個別指導のため、保護者やお子さんを対象にした定期的な集団訓練は実施しにくい職員を対象に実施。	はい(30.8%) どちらともいえない(41%) いいえ(28.2%)	万が一指導中に災害が起きたときにお子様や保護者様の安全を守るためにはどう動いたらいいか、各職員がシミュレーションしておく。保護者にも伝える。
	③⑨ 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	とてもできている。(はいが100%)		重度ではないお子さんに対して個別指導を基本的に保護者観察・または近くに待機の実施していることもあり、そもそも虐待が起こりにくい。実際にどのような「虐待」の事例があるのかは、知っておくことは大切なので研修を実施した。
	④⑩ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に記載しているか	はい。(80%) そもそも、指導対象のお子さんは、身体的拘束を行う必要がないため、個別支援計画には記載していなかった。契約書には記載している。		今後もいわゆる「身体的拘束」は行わないが、部屋から飛び出すお子さんを抱きかかえたり手を掴んだりする場面があることを保護者に予めお伝えしていく。
	④⑪ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	できている。(はいが100%)		今後も、必ずアレルギーの有無を確認した上で、強化子としての煎餅等は成分上問題のないものを使うことを徹底する。
	④⑫ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内での共有できているか	できている。(はいが100%) 「事例集」の形で文書化し、職員には注意を促し、実習生等には起こりうる事例を伝えていく。		文書化したヒヤリハットの事例を職員や年に数人来る実習生に共有する。また新たな事例が起きたら追記していく。
満足度	④⑬ 子どもは通所を楽しみにしているか		楽しみにしている(はい82.1%、 いいえ2.6%、どちらともいえない15.4%)	「どちらでもない」とお答えになったお子さまが次年度は「はい」とお答えいただけるよう取り組んでまいります。
	④⑭ 事業所の支援に満足しているか		満足いただけている(はいが94.9%、 いいえ5.1%)	一層ご満足いただけるように精進いたします。